



大阪・関西万博の開催により世界から関西に注目が集まるこの機会に、国内外の関係者参加により渦潮の魅力の発信と海の適正利用について考えるシンポジウムを開催した。

1 日時 令和7年9月1日（月） 13:00～16:40

2 場所 ホテルニューアワジ プラザ淡路島（兵庫県南あわじ市阿万吹上1433-2）

3 テーマ 渦潮から考える海と暮らしの未来

4 内容

● **両会長挨拶**（兵庫・徳島県知事）

● これまでの取組報告

・鳴門海峡の渦潮の普遍的価値

柴田昌三 学術調査委員長（自然分野）

・鳴門海峡の渦潮世界遺産登録に向けた今後の取組の方向性

金田章裕 学術調査委員長（文化分野）

● 海外事例紹介（海外類似資産連携調査学術機関からの発表）

サルトストラウメン海峡の渦潮と海洋保護区域

ヴィグディス・トゥベルバーグ氏

(Prof. Vigdis Tverberg)

(ノルウェー ノード大学 教授)

バイオサイエンス・水産養殖学部 生態学学科長)



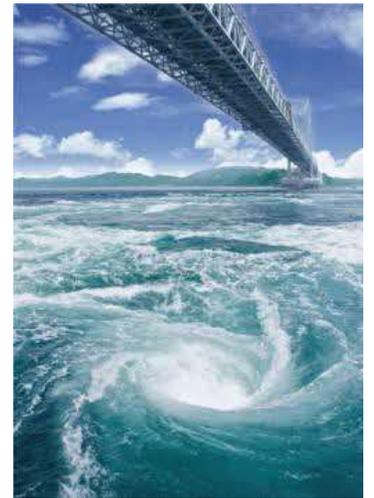
コリーヴレツカン湾の渦潮

～ 神話と現況 ～

アンドリュー・デール氏

(Dr. Andrew Dale)

(スコットランドスコットランド海洋科学協会 主席研究員)



● 基調講演

顕著な普遍的価値を有する自然遺産を守るための手段としての世界遺産条約

ギイ・デボネ氏
(Mr. Guy Debonnet, M.Eng.)
(元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長)



地質遺産の保全における地域社会の参加

シャフィーア・レマン氏
(Prof. Emeritus Dr. Mohd Shafeea bin Leman)
(マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員))



世界遺産の文化的景観：自然と文化の懸け橋

モニカ・ルエンゴ氏
(Dr. Mónica Luengo)
(元イコモス文化的景観国際委員会委員長)



● パネルディスカッション

世界遺産と豊かな海について、学術委員、海外招聘者、地域住民と共に意見交換

コーディネーター 吉田正人氏 (筑波大学名誉教授・世界遺産学)

住民活動団体 雨堤 徹氏 (NPO法人うず潮を世界遺産する淡路島民の会 副会長)

● 鳴門の海を守り育てるメッセージ

兵庫県立淡路三原高等学校 2年生 ボランティア同好会 2名

徳島県立鳴門渦潮高等学校 2年生 インターアクト部 2名

5 参加者 190名

6 意見交換会及び現地視察

シンポジウム後に意見交換会、シンポジウム当日午前中と翌日に鳴門海峡周辺の現地視察を実施。



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ

7 海外事例紹介、基調講演の概要



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ

【ヴィグディス・トゥベルバーグ氏】（ノルウェー ノード大学 教授 バイオインシ・水産養殖学部 生態学学科長）

「サルトストラウメン海峡の渦潮と海洋保護区域」

海外事例紹介概要

ノルウェー・サルトストラウメン海峡の渦潮の調査状況の報告の他、海峡周辺における保護保全状況や地域の課題などが紹介された。

主な発言

- ・ 2013年から海洋植生や底生生物の保護を目的とした保護区域の設定が行われている。
- ・ 釣り針や釣り竿が回収されずそのまま投棄されていることが問題となっている。
- ・ 民間のダイビング会社による清掃活動が行われている。



【講演資料：ダイビング会社清掃活動】

【アンドリュー・デール氏】（スコットランドスコットランド海洋科学協会 主席研究員）

「コリーヴレックン湾の渦潮 ～ 神話と現況 ～」

海外事例紹介概要

スコットランド・コリーヴレックン湾の渦潮の発生メカニズムや調査状況の報告が行われた他、地域で語り継がれている神話や地元の観光などが紹介された。

主な発言

- ・ コリーヴレックン湾は、スノーボールアース※の仮説を証明する地質的にも非常にめずらしい場所である。
- ・ 湾周辺は無人であるが精霊や女神といった神話がある。
- ・ 辺境の地であるが今日では観光船などのツアーが行われている。



【講演資料：渦潮にまつわる精霊や女神の神話】



【講演資料：現地で行われている観光ツアー】

※近年、地球史研究者の間で主流となりつつある地球表面全体が凍結するほどの激しい氷河時代が存在したという考え方

【ギィ・デボネ氏】（元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長）

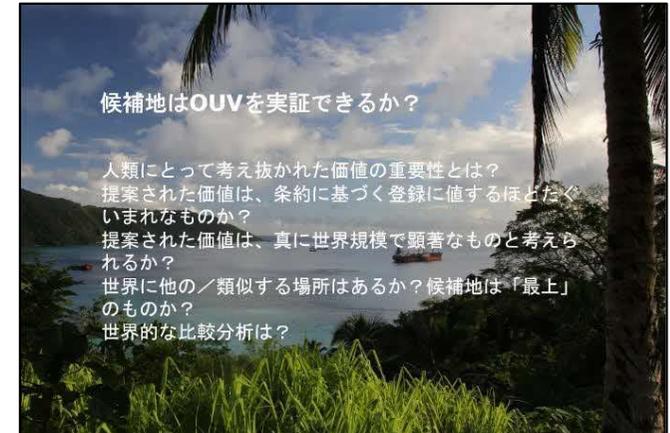
「顕著な普遍的価値を有する自然遺産を守るための手段としての世界遺産条約」

基調講演概要

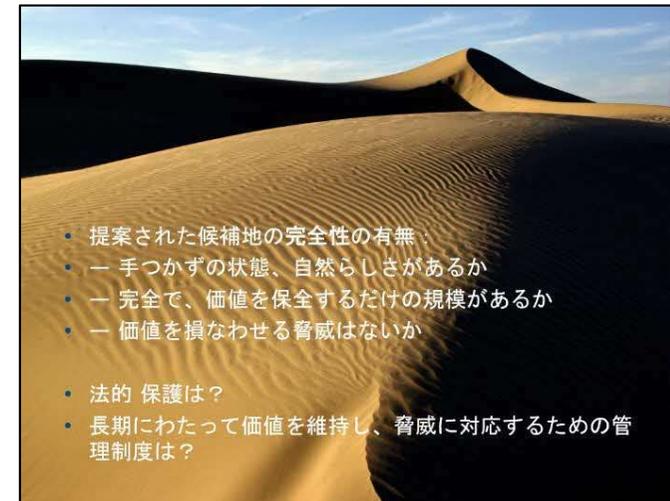
世界自然遺産が地球環境に果たしている役割などについての紹介が行われるとともに、世界自然遺産登録時のユネスコの審査の基準など、自身が責任者だった時の経験を元にユネスコの考え方を講演いただいた。

主な発言

- ・ 2万種以上の絶滅危惧種が世界自然遺産の保護区域内に存在し、生物多様性の保護に重要な役割を果たしている。
- ・ 顕著な普遍的価値の3本柱があり、1つ目は評価基準を満たすこと。2つ目は完全性を満たすこと。3つ目は保護と管理。登録されるには法的に保護されていることが必要。また、管理システムが整っていることが選定の要件。
- ・ 手つかずの自然が残っているか。評価基準viiの自然現象・自然美で登録を考えているなら橋などの構造物は問題になり、他の評価基準の検討が必要かもしれない。
- ・ 顕著な普遍的価値の評価基準は少なくとも1つを満たさないといけないが評価基準viiは他の基準と組み合わせて使用される。評価基準viiを取るのであれば少なくとも2つの基準を満たす必要がある。
- ・ まずは各国の暫定リストに載ることが重要。各国の暫定リストには渦潮を含んだ資産があるのでそことの比較も必要となる。
- ・ 世界遺産は非常に注目の集まる存在だが、エコパークやジオパークなどの制度もあるので併せて検討されれば。



【講演資料：世界遺産に必要な考え その1】



【講演資料：世界遺産に必要な考え その2】

【シャフィーア・レマン氏】（マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員)）

「地質遺産の保全における地域社会の参加」

基調講演概要

地質遺産の価値評価という観点から、世界自然遺産以外の世界ジオパークやIUGS国際地質科学連合の独自の認定制度である地質遺産100選などの制度紹介をいただくとともに、地質の保護保全における地域コミュニティの参画の重要性や住民参加により遺産の社会的価値が高まることなどを紹介いただいた。

主な発言

- ・世界ジオパークは、国際的に地質学的にも意義のある場所や景観が保護・教育・持続可能な開発という概念で管理されている。
- ・「積極的なコミュニティの参画」が最も重要。完全性を維持するためには地域の参画はかかせない。まずは地域住民の意識が向上し理解が高まり、自分ごととし積極的に法制に取り組むことで、最終的に遺産の社会的価値が高まることとなる。



【講演資料：様々な地質遺産の制度と重要度の紹介】

【モニカ・ルエンゴ氏】（元イコモス文化的景観国際委員会委員長）

「世界遺産の文化的景観：自然と文化の懸け橋」

基調講演概要

世界遺産における文化的景観にかかわる言葉の説明とともに海洋・沿岸において文化的景観が認められた世界遺産をその登録された理由とともに紹介いただいた。

主な発言

- ・シースケープ（海景）という概念は当初は海の眺めや広がりを描いた絵やその眺望を意味した。その後、沿岸の景観、隣接する開水域を含み、陸から海、海から陸、海岸線の眺めも示すようになった。
- ・世界遺産に登録された海洋・沿岸の文化的景観は資源の供給源、交流の場、アイデンティティの要素として海の重要性を証言するものとなっている。
- ・鳴門の渦潮の推薦については、文化的景観のアプローチという考え方、少なくとも文化的価値の側面を考慮することを推奨したい。



【講演資料：文化的景観に指定された世界遺産の例】

8 鳴門の海を守り育てるメッセージ（要約）

- ・鳴門海峡の渦潮は、地球上のここでしか見ることができない偉大な自然現象で、かけがえのない財産。
- ・鳴門海峡は、古くから人や物、文化が行き交う交流の要衝で、豊かな海の幸をもたらし、壮大な風景は見る人に感動や驚き、癒しを与える「豊かな里海」。
- ・この里海を守り育てながら、魅力ある地域づくりをこれからも進めていくことが大切。
- ・先人から受け継がれてきた、豊かな自然や景観、生み出される恵みの価値を、私たちがその大切さを深く理解し、皆が協力して守り、次の世代へつないでいく。



【メッセージを宣言する高校生】

（左2名：兵庫県立淡路三原高等学校、右2名：徳島県立鳴門渦潮高等学校）

9 パネルディスカッション、意見交換会での主な意見

【ヴィグディス・トゥベルバーグ氏】（ノルウェー ノード大学 教授 バイオサイエンス・水産養殖学部 生態学学科長）

- ① 地域社会住民の参画が非常に重要であり、我々の所ではダイビング会社が積極的に行っており、何が重要かということを彼らに聞いたところ、シンプルにこの場所を守りたいと言う。観光客たちに来たいと思ってもらえるようにするためには、綺麗にしなければいけないという話をしてきた。そういった認識、意識をもつと広げ、関心を高めていくことが必要だと思う。
- ② 環境団体と協力して様々な活動をしておりエコロジーを研究しているメンバーは、海洋環境に懸念を持っている。釣りを禁止すべきとの動きにも繋がっている。オーバーツーリズムは、生物の多様性、そこに生きている動植物に対してやはりマイナスの影響があるので、あまり急激な人数の増加というよりは少しずつ制限して行うことが重要だと思う。



【アンドリュー・デール氏】 (スコットランドスコットランド海洋科学協会 主席研究員)

- ① コミュニティの参画については、学校の取り組みも含めて素晴らしいと思った。我々も科学技術を通じて学校と様々な形で海洋の環境をいかに守っていくか、その重要性を様々なプログラムを通してやろうとしている。子どもたちにとって、渦潮というのはとてもわくわくするような存在でもあるので、もっと渦潮をトピックにして、子どもたちをしっかりと巻き込んでいくことができたらと思って活動している。
- ② 科学的になぜ渦潮ができるのか、本当に知られていないことが多いことに、科学者として驚かされている。
- ③ うずしお科学館の水理模型に大変感銘を受けた。船で渦潮を見られる環境を整えている所にも非常に感銘を受けた。

**【ギィ・デボネ氏】** (元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長)

- ① コミュニティの参画は、今は世界遺産においては無くてはならない存在になってきている。コミュニティが保全にしっかりと参画していくこと、そしてその保全の重要性自体もさらに高まっている。
- ② これまで沢山の調査が既にされており、その中で非常に類い稀な独自性も多く言及されており、ユニークさの一つ重要なことであるが、世界的に顕著な価値をどこまでアピールすることができるか。
- ③ ジオパークの可能性も非常に良い。世界遺産より容易なプロセスだと思う。コミュニティの教育などが非常に重要となるが、既にこの地域ではその強みがあるのでうまく活用して、まずジオパークの近道から行くということも一つかと思う。
- ④ 評価基準viiiで申請をされる方が、受理されやすい可能性があるかと思う。基準viiだけで受理されるということはほとんどない。



【シャフィーア・レマン氏】(マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員))

- ① 世界遺産の多くが、ジオパークとの合同になってきている。ジオパークから学ぶこともある。現実問題として、仕事をするには対価が必要で、保全まで考えるとWin-Winの関係が重要である。
- ② 評価基準viiはかなり難しく、このOUV（顕著な普遍的価値）を景観が美しいということだけで条件を満たすというのは非常に難しい。美しいというのはかなり主観的な評価になる。
- ③ 基準viiiで見ても他の同じような場所との比較が必要で、世界遺産をめざすのではあれば、まだ道のりは長いと思う。
- ④ ジオパークとして見たら、コミュニティの参画や必要条件に既にかかなりのところが満たされていると思う。ジオパークの場合は地質、そしてコミュニティの参画、この二つの要素が重要になる。既にコミュニティの参画についてはかなりクリアされていると思う。
- ⑤ 可能性があると思うのは、渦潮の形成の進化について、他の渦潮と合わせた形で申請をするということ。そのシリーズで、或いは一連の渦潮として申請する。この地域でも様々な渦潮があるかと思うが、それをまとめた形で段階的に整理しては。
- ⑥ 評価基準viiiであれば、海底地形も世界遺産の対象に含めることができると思う。



【モニカ・ルエンゴ氏】 (元イコモス文化的景観国際委員会委員長)

- ① 昨日、環境シンポジウムに参加し、若い世代、高校生による本当に信じられない、とても素晴らしい経験をした。
- ② 世界遺産のプロセスは非常に長い道になり、かなり長期的に考えなければならない。富士山でさえ当初、基準viiで登録を目指したが、途中でアプローチを変更したということがあった。このプロセスは一歩ずつで考えていただければと思う。その過程で例えばジオパークがコミュニティにとっていいのか、さらにリサーチを進めていただければ。
- ③ 海外とのシリアル申請も考えられているので、こういったことも含めながら一歩ずつで進んでいくことが重要である。
- ④ 橋があれば、基準viiで自然となると非常に難しいかと思う。
- ⑤ 文化的な側面では、まだまだやるべきことは多くあるのではないか。





会場の模様



協議会会長（両県知事）挨拶



取組報告 柴田昌三委員長



取組報告 金田章裕委員長



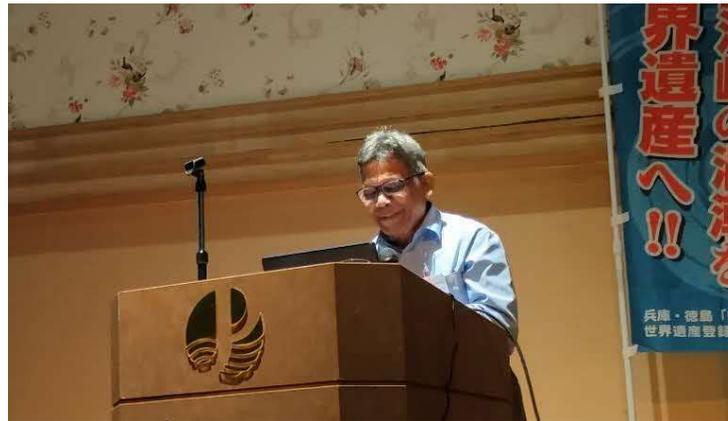
海外事例紹介 ヴィグディス・トゥベルバーグ氏



海外事例紹介 アンドリュー・デール氏



基調講演 ギイ・デボネ氏



基調講演 シャフィーア・レマン氏



基調講演 モニカ・ルエンゴ氏



パネルディスカッション



コーディネーター 吉田正人氏



住民活動団体 雨堤 徹氏



鳴門の海を守り育てるメッセージ宣言



登壇者 記念撮影



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ



意見交換会



現地視察：道の駅うずしお（9月1日）

現地視察：うずしお科学館（9月1日）

現地視察：国重要文化財 福永家住宅（9月2日）



現地視察：名勝「鳴門」 鳴門公園（9月2日）

現地視察：大鳴門橋遊歩道 渦の道（9月2日）

現地視察：うずしおクルーズ（9月2日）